

第1回 射水市住生活基本計画策定委員会会議録（要旨）

□日 時：令和2年7月27日午後2時00分～午後4時00分

□場 所：射水市役所大島分庁舎3階 大会議室

□出席者：（委員）櫻井委員長、松本副委員長、佐々木委員、草野委員、米田委員、
柴田委員、朝倉委員、京谷委員
（事務局）都市整備部：島崎部長、南次長
建築住宅課：酒井課長、高橋係長、旅家主事

- 1 開会挨拶
- 2 計画策定の目的の説明
- 3 委員紹介
- 4 委員長挨拶
- 5 資料説明
- 6 会議事項、議題及び会議結果

（委員長）

住んでおられるそれぞれの地区で、日頃感じている事柄や感想等、順番に発言していただきたい。

（委員）

一人暮らしの高齢者が亡くなり、家は介護保険制度を活用してバリアフリーとなっていたが、解体された事例がある。これでは非常にもったいないと感じた。

（委員）

日常は車利用がほとんどで、自家用車と比べるとコミュニティバス利用は不便さを感じている。また、外国人の居住が増えているが、言葉の問題もありコミュニケーションに苦慮している。

（委員）

既存の住宅ストックをどう活かすかが大事と思う。ニーズに合った人口定住に繋がるのではないかと。

（委員）

農村部の高齢者のみの世帯では、買い物に行けない等の問題が出てきている。アンケートにもあるとおり、災害・水害に関心を持っている人が多い。また、基本方針にもある「支え合い」について、校下の「支え合いネットワーク事業」を行っているが、なかなか上手くいかず苦労している。

(委員長)

連携・協働については、上手くいっているところは少ない。

(委員)

人と人のコミュニケーションを通じて、元気で楽しいまちにしたい。地域活性化には転入世帯と元々住んでいる世帯のコミュニケーションが不可欠だと思っているが、そのカギは「子ども」ではないかと思っている。

(委員)

住宅のバリアフリー化や耐震化、省エネ化はまだまだ進んでいないので、行政と連携して進めるべきと考える。また交通面では、コミュニティバスのない地区でのデマンドタクシーは病院への通院や買い物には使いにくい等、課題がある。

(委員)

「まちを元気にしたい」がキーワードになるだろう。他には空き家問題、コミュニケーションが重要だと考えている。空き家対策としては、まず、空き家にならないようにすること、そして空き家になれば各種事業等を活用して流通させることが重要。また、少子高齢化問題については、二世帯住宅を推進することが重要であるが、親世帯と子世帯のニーズの違いの掘り下げが重要だと思う。

(委員長)

人口減少は今後も続くはずで、その様な背景において、支え合って元気になるためにはどうすれば良いのか、地域で経済が回るような仕組みづくり（地産地消等）が重要。全国のどの自治体も人口の誘致を考えている。どんな人に来てもらうかが問題。例えば外国人であるが、今後も増加するはずである。外国人のニーズをどう捉えるか、どうコミュニケーションがとれる環境づくりを行うか、また射水市に住みたいと思わせる魅力の発信等が重要になる。そのため、外国人の居住実態について把握することが必要だと思う。

(委員)

重要なのは①コミュニケーション、②地域活性化方策、③バリアフリー化の推進と考えている。

(委員)

手摺等でバリアフリー化されている空き家を、市が仲介して入居先の決まらない高齢者に紹介すれば良いと思う。

(委員長)

困っている人を助けるシステムがあれば、誰もが安心して住める。

(委員)

どんどん住宅が建設されるから空き家が増える。空き家を市営住宅や県営住宅として活用すれば、空き家は無くなるのではないか。

(委員長)

持ち家を始めどんな居住形態を望むのか、それは各個人の自由であるが、空き家については、市場に出して選択できるようにすることが大切。

(委員)

水害や地震等の防災対策について、市はどのように考えているのか。

(事務局)

市では射水市地域防災計画に示すような防災対策を行っている。地震については木造住宅耐震改修支援制度もある。また水害についてはハザードマップを作成しており、避難する場所も記載されているので確認してほしい。

(委員)

ハザードマップで確認し、地元で対応策を協議すべき。

(委員長)

行政にも限界がある。すべての公共施設の維持も困難になりつつある中で、民間の知恵や地元住民の知恵で支えるべきである。また、困っている人を見つけ、地域が市に知らせる仕組みづくりも大切である。次回は、これらの事を計画にどう表現するのか、協議したい。

7 その他 (次回開催日程について)

8 閉会